

# 視聴覚教育時報

No.719 2020年 2月号

## contents

- ▽令和元年度 全国大会報告②—全視連研究交流、セミナー、実践発表
- ▽講師派遣事業 生涯学習視聴覚フォーラム（岐阜県）
- ▽えすけーぷ

### ▽令和元年度 全国大会報告②—全視連研究交流、セミナー、実践発表

前号（2019年12月号）において全国大会の全体の概要をご報告した。今回は全視連が実施した研究交流、セミナー、実践発表の詳細についてご報告する。

#### <全視連研究交流（11月8日（金））>

会場：パナソニックセンター東京  
 参加者：32名  
 司会者：村上長彦（全国視聴覚教育連盟専門委員長）  
 施設見学・事業紹介：パナソニックセンター東京スタッフ

#### 1. 研究交流

○事業紹介・施設見学 13:30～15:30

##### ①パナソニックセンター東京の概要

パナソニックセンター東京は、グローバルな総合情報発信拠点として2002年9月にオープンし、これまで191か国から1,180万人が来館している。

パナソニックセンター東京には「ビジネス」「次世代育成」「オリンピック・パラリンピック」の3つの活動軸があり、そのための施設として以下のような構成となっている。

##### <ビジネス>

- ・ビジネスソリューションズ未来区  
 未来の生活を提案し、体感できる仮想都市
- ・空間ソリューション（ビジネスVIF会議室）
- ・Wonder Life BOX



2020年～2030年のより良い暮らしを提案  
 <次世代育成>

- ・リスープ（理数の魅力、体感ミュージアム）  
 2006年8月に開設し、累計430万人、17,920校の学校が利用
- ・リスープワークショップ  
 大学との連携やナビゲーターによるワークショップを実施
- <オリンピック・パラリンピック>
- ・オリンピック・パラリンピック展示  
 「スポーツ」「教育」「文化」の3軸でオリパラムーブメントを醸成
- ・Active Learning Camp  
 オリンピックやパラリンピックをアクティブに学べる場として2015年10月に開設し、累計105万人、7,900校の学校が利用

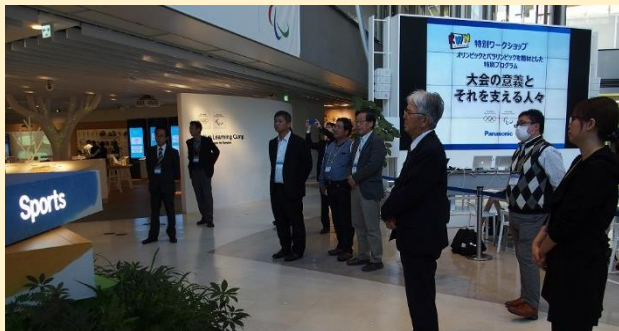
## ②施設見学

### ＜リスーピア＞

最初に参加者全員で「リスーピア」の見学を行った。リスーピアには楽しみながら不思議を感じられるクエストフロアと理数の不思議を見て、ふれて体感できるディスカバリーフロアがあるが、今回はディスカバリーフロアを見学した。

体験型展示として、光の3原色を利用して絵を描くライトキャンバスをはじめとして9つの展示が用意されており、見学時にも中学校が利用していた。

### ＜ビジネスソリューションズ未来区＞



未来の住まいやコミュニティ、車が進化した新しい移動空間、製造現場の自動化、デジタル技術による生活の快適化などの展示を見学した。

### ＜オリンピック・パラリンピック＞

スポーツ、文化、教育の各コーナーを見学した。スポーツのコーナーでは、東京2020大会から追加種目となった新競技が体験できる展示も行われていた。

## 2. 全国視聴覚教育連盟理事会・全国公立視聴覚センター連絡協議会総会 15:30～16:30

研究交流に続いて、令和元年度第2回全国視聴覚教育連盟理事会が開催され、議題として令和元年度事業経過報告書（案）及び中間決算報告書（案）が出され、説明、協議の後、可決承認された。

続いて令和元年度全国公立視聴覚センター連絡協議会総会が開催され、平成30年度事業報告書（案）及び収支決算報告書（案）、令和元年度事業経過報告書（案）及び中間決算報告書（案）、役員改選について説明、協議の後、可決承認された。

## ＜全視連セミナー（11月9日（土）9:20～10:50）（会場：東京都台東区立台東育英小学校）＞

テーマ「全視連の調査研究報告・意見交換」

司会：村上長彦（全国視聴覚教育連盟専門委員長）

提言：丸山裕輔（全国視聴覚教育連盟副専門委員長／新潟県阿賀町立上川小学校）

記録：丸山裕輔（ 〃 ）

### 1. 会の流れ

はじめに、丸山副専門委員長から「『地域メディアセンター事業事例』に関する研究」報告をもとに、提言が行われた。その後の意見交換の中で、各地の実例を踏まえながら、参加者それぞれの施設での現状や今後の取組について議論した。

### 2. 提言

急激な社会変化と共にメディア環境が多様化する中で、視聴覚センター・ライブラリーは、単なる「映画や録画の貸出機関」から「地域メディアセンター」としての変貌が求められている。そこで、「ICTを活用し、メディアを学び・創り・送り・使うための学習機会の共有、技術支援、機器及び環境提供をサポートする地域メディアセンターとしての在り方」を検討するた



めに、次の事例を手掛かりにして話題提供を行った。

- ①岩手県中央地域視聴覚ライブラリーの実践「16ミリ映写機を通した『学習機会の提供』と『技術支援』」
- ②千葉県総合教育センターにおける取組「ビデオカメラを用いた教材づくりを楽しもう」
- ③栃木県視聴覚教育連盟の取組「『自作視聴覚教育コンクール』と『集まれ！メディアの仲間達』」
- ④せんだいメディアテークの取組「3がつ11にちをわすれないためにセンター」
- ⑤新潟県立生涯学習推進センターと新潟市鳥屋野地区公民館との連携した取組

「センター『上映プログラム講座』から公民館『いきいきセミナー公開講座』への展開」

### 3. 意見交換

参加者からも、地域メディアの拠点として実施されている取組が紹介された。平和学習に向けた映像の活用、幼稚園への出前出張上映、県有財産となる伝統文化の映像記録の保存・蓄積、高校や大学とつながりのある自作視聴覚教材の発表会等の取組は、学校教育や社会教育にも貢献している。反面、フィルム劣化からメディア変換の問題とともに、フィルム利用の継続性・今後の可能性についても、活発な意見交換がなされた。

### 4. まとめ

最後にまとめとして、村上専門委員長から、下記のような点を中心に、講話がなされた。

①メディアセンターとして「成人の学習におけるICT活用」をどのように進展させていくのか。

・情報リテラシーを身に付けさせる取組を行う。



- ・手段としての視聴覚教育の知見を生かす。
- ・発見する、継続する、つながる研修にする。
- ②「人」とのつながりをどうやってつくるのか。
  - ・映像づくりを、チームで楽しむ。
  - ・プロから学ぶ。プロの機材を使う場合もある。
  - ・同じ思いや志を実感できる仕組みを構築する。
- ③フィルムやビデオテープの劣化の問題に対して、どのように対応していくのか。
  - ・媒体や機器毎の寿命・延命対策を考える。
  - ・寿命に関する相談や啓発を組織的に行う。

<全視連実践発表(11月9日(土)) 13:00~14:55> (会場:東京都台東区立台東育英小学校)

テーマ:「視聴覚センター・ライブラリー事例発表」

発表A:樋口 誠

(埼玉県春日部市視聴覚センター)

発表B:増山和宏

(栃木県宇都宮市立視聴覚ライブラリー)

講師・司会:村上長彦

(全国視聴覚教育連専門委員長)

記録:丸山裕輔

(全国視聴覚教育連副専門委員長/新潟県阿賀町立上川小学校)



#### 1. 発表概要A

「春日部市視聴覚センターの取組」

発表者:樋口 誠

(1)はじめに

視聴覚教育を通じ、市民の生活文化と知識教養の向上及び学校教育と社会教育の振興を図ることを目的として設置されている。センターとして果たすべき機能別に実施している取組を紹介する。

(2)実践の概要

①研修・学習センター機能

- 1) 16ミリ映写機簡易技術講習会
- 2) 市民映像セミナー
- 3) 市民パソコンセミナー
- 4) 市役所職員、教職員の研修、支援
- 5) 児童生徒に関わる事業



②教材センターとしての機能

- 1) 視聴覚ライブラリー
- 2) 視聴覚センター専門委員会
- 3) 映像制作

③情報・研究センターとしての機能

- 1) 学習情報サロン
- 2) ミニギャラリー
- 3) ホームページの作成、管理
- 4) マイギャラリー

## 5) 近隣大学との連携

### (3) おわりに

#### ① 社会教育の視点

市民対象の事業は、生涯学習のきっかけ作りと継続した学びの場を提供することを大切にしている。新しい事業展開に向けて、そのための工夫や予算の確保をしていく。

#### ② 学校教育の視点

急激な情報化の進展並びに新学習指導要領への対応として、先生方の悩みに答えられるような情報提供や研修機会の提供を行っていく。

#### ③ 生涯学習推進の視点

市民のニーズの多様化へ対応していく必要がある。そのために、企業・教育機関・市民講師・地域住民等と連携・協力していく。

## 2. 質疑応答A

### ① ビデオ編集機器やソフトについて

### ② 専門委員会の構成について

### ③ 視聴覚教材の貸出対象について

## 3. 発表概要B

### 「16 ミリ機材の研修機会提供や映画会などの技術支援」

発表者：増山 和宏

#### (1) 実践のねらい

視聴覚教材は、幼児や児童を対象とした物から高齢者向けと幅広いジャンルの作品を所蔵している。16 ミリ機材の利用研修機会の提供や映画会などの技術支援の取組について紹介する。

#### (2) 実践の概要

##### ① 研修機会の提供

###### 1) 16 ミリ映写機操作技術認定研修会

教育や福祉関係の職員や、地区の老人会や育成会等で映画会を開催したい方が受講者である。

###### 2) 映画会担当者研修

映画会の担当者に対して研修を行い、利用者の資質向上と視聴覚教材の利用促進を図る。

##### ② 映画会などの技術支援

###### 1) 映画会の概要

- ・毎月第3週の金・土・日に上映
- ・年4回（最近の作品）を上映
- ・年3回地区市民センターでの上映
- ・7、8月に野外での上映
- ・映写ボランティアによる上映

###### 2) 映写ボランティアの活動の概要

- ・16 ミリ映写機操作技術講習会の講師
- ・親子映画会（毎月第3日曜日）
- ・施設等での映画会



・地域映画会の映写補助

### (3) 実践の結果と考察

#### ① 研修機会の提供

- ・講習会や再講習の開催で、技術者の育成や技術を保持すると共に、機材・教材の保護に努める。
- ・他の機材についても研修を行い、資質の向上を図りながら、利用の促進に努めていく。

#### ② 映画会

- ・講習会や開催相談、上映支援により、地域での上映会が増加してきている。
- ・講習会の受講生を通じ、新たな団体などの活動についても利用の促進に努めていく。

## 4. 質疑応答B

### ① 映写ボランティアの組織・体制について

### ② ボランティアへのライブラリーの支援について

### ③ 16 ミリ映写機操作技術講習会の内容について

## 5. 研究協議

### ① メディアを使う

- ・ホールでの鑑賞会だけではなく、『ほしぞら映画会』といったユニークな上映スタイルがある。
- ・「親子映画会」では、教科書に出てくるような「おおきなかぶ」「ごんぎつね」も映写している。
- ・「学童クラブ」といった場所で、放課後の小学生対象の上映会が行われている。
- ・「介護施設」で過去の名作や地域の昔の記録映画を上映し、お年寄りの回想法として活用する。

### ② メディアを学ぶ

- ・図書館と一体となった取組を行っている。
- ・講習会を近隣の視聴覚ライブラリーと連携しながら行っている。
- ・講習会の講師をボランティアにお願いするなど工夫をしている。

### ③ メディアを創る

- ・郷土資料を素材とした教材制作では、学校職員のみならず、文化財保護課、商工観光課といった部署の職員を巻き込みながら取り組む。

- ・企画・制作の段階において、従来の単体から将来の配信スタイルを意識しながら行っていく。

## 6. 指導・講評

全体を通して、司会者でもある村上専門委員長から、次のような指導・講評が行われた。

- ①16 ミリ映画を文化財の視点で考える
- 時代を反映する・象徴する固有な 16 ミリ映画の価値をどこに置き、どうみるのか。
- 地域の貴重な映像教材の保管保存の問題を、いろいろな要素・方法から真剣に考えていく。
- ここにしかないものとしての映像をどのように活用していくのか、知恵を出し合う必要がある。

- る。
- ②映像を媒介にして人と人をつなぐ
- フィルム映像を扱っている人（供給）と、それを使う人（需要）とのかかわりを考慮する。
- 同じ映像でも、映画監督としてどんな思いでつくっているのかといった違う視点の学びがある。
- 映像がもっている力は、貴重な添加剤になると共に、人がかかわっていく循環を生み出す。
- 今ある仕組みにとらわれないで、地域メディアセンターとしてのいろいろな取組を行っていく。

## ▽講師派遣事業 生涯学習視聴覚フォーラム（岐阜県）

全視連の講師派遣事業を活用し、羽鳥市歴史民俗資料館・映画資料館の近藤良一氏を講師として、岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会主催により130名の参加者を得て標記研究大会の中で講演会が実施された。

### 1. 日時

令和元年 12月1日（日）13:30～16:00（講演：15:10～15:25）

### 2. 会場

中津川市健康福祉会館（多目的ホール）

### 3. 趣旨

県内の視聴覚ボランティア関係者が一堂に会し、ICTを有効活用した地域情報発信について研究し、交流を深めることで、視聴覚教育を通じた生涯学習及びまちづくりの推進を図る。

### 4. 参加者

視聴覚教育功労者表彰被表彰者 10名、視聴覚作品コンクール入賞者 15名、各市町村視聴覚団体関係者 95名、行政関係者・引率者など 10名

### 5. 内容

- ①開会式（主催者、来賓祝辞、来賓紹介）
- ②表彰式（視聴覚教育功労者表彰、視聴覚作品コンクール表彰）
- ③視聴覚作品コンクール入賞作品鑑賞会及び講評・総評
- ④団体活動報告
- ⑤閉会式
- 6. コンクール講評・総評

近藤良一氏（羽鳥市歴史民俗資料館・映画資料

館）

### ①入賞作品

- ・岐阜県知事賞  
「昔、ここに歌舞伎があった」田中啓介（東濃ビデオアイ）
- ・岐阜県議会議長賞  
「治水の恩人 デ・レーケを追って」廣瀬悦三（大垣市視聴覚教育連絡協議会）
- ・岐阜県教育委員会教育長賞  
「海の恵み」近藤 潔（東濃ビデオアイ）
- ・NHK岐阜放送局長賞  
「蒸気機関車は一永久に不滅ですー」代表：佐藤光司（中津川視聴覚クラブ）
- ・岐阜新聞・岐阜放送賞  
「わが街水都、大垣」河村忠幸（大垣 140 ビデオ同好会）
- ・岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会 11 作品
- ②参加者の声（アンケートより）
- <フォーラム全体について>
- ・内容、時間ともに良かった。
- ・プログラムの全体進行やアナウンサーが良かった。
- <コンクール講評・総評について>
- ・作品鑑賞の講評が良かった。
- ・作品の改善点や変更点など具体的な点まで解説してほしかった。上位3作品以外の講評も希望。
- ・他団体の作品を見ることは大変参考になる。
- ・作品鑑賞にもっと時間をかけてほしい。

---

## ▽えすけーぷ

最近、視聴覚センター・ライブラリーの映像資料のデジタル化に関連して、著作物の「フェアユース」に関する本や「2018年著作権法改正」に関する本を読み返しています。

私たちが普段何気なく使っているインターネットブラウザの検索エンジンはアメリカ製です。もともと検索エンジンは日本でもアメリカでも1994年に誕生しています。しかし、日本では著作権侵害の問題を回避するために、事前に検索するウェブサイトの了解を得る「オプトイン（原則禁止）方式」となったために、検索しても限られた情報しか得られませんでした。一方アメリカでは裁判沙汰もあったものの、「オプトアウト（原則自由）方式」を採用してより豊富な検索結果が表示できるようにしました。日本に対してもサーバーをアメリカに置いてサービスを提供したため、日本全体がアメリカ製の検索サービスを使うようになってしまったという訳です。

この背景にあるのが「フェアユース」の考え方で、視聴覚センター・ライブラリーが提供する視聴覚教材には直接には関係しないのかもしれませんが、デジタル時代の教材提供を考える上で、きちんと理解しておかなければならないと思った次第です。

2018年の著作権法改正は日本版フェアユース規定の必要性が議論されてから10年余り経って、日本版フェアユース規定の第一歩となった改正ですので、やはり改正内容を正しく理解しておく必要があると思います。

視聴覚センター・ライブラリーが所有する16ミリフィルムやビデオテープの映像資料が再生機器の問題で上映が難しくなっている現在、再生できる環境を守るために機器を確保するのか、映像をデジタル化するのかという選択の岐路に立たされています。どちらの道も簡単ではない道ですが、どちらも取り組む意味があると思います。そしてデジタル化に向けて避けて通れないのが著作権ということになります。

これまで日本の著作権法は、著作権者の権利を守るという面で法制度の強化が進んでいますが、視聴覚教育施設における映画の著作物の貸与は施行令で明示されることで可能になっています。既存映画のデジタル化についても法的な補償を確保することが望ましいと思いますが、フェアユース規定が10年かかっても十分な規定になっていないという意見があるくらいですので、長い道のりになることを念頭に置いて取り組まないといけないでしょう。（TM）

---

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11 虎ノ門 PF ビル

TEL : 03-3431-2186 / Fax : 03-3431-2192

HP : <http://www.zenshi.jp/>

Mail : [info@zenshi.jp](mailto:info@zenshi.jp)

---

# 東映 教育ソフト Line-up!

## 小学校 社会科

### なぜなに社会科 映像資料集

#### DISC3 食料生産

- 知りたい!米をつくる農家の仕事 (16分)
- 知りたい!野菜をつくる農家の仕事 (11分)
- 知りたい!酪農家の仕事 (13分)
- 知りたい!漁港のやくわり (12分)



4タイトル+映像クリップ  
66,000円(税抜)  
学校特別価格 33,000円(税抜)

## 小学校 防火

### 火事から自分の命を守る 生きぬくためのリスクウォッチ

子供たちが火災に巻き込まれたとき、どう行動すればよいのかを描いた作品です。“リスクウォッチ”=危機監視プログラムをもとに、アメリカで教えられている子供向けの火災予防プログラムを、映像で分かりやすく紹介し、子供たちが危機に直面しても生きぬく力を育むことをねらいとします。



(15分) 66,000円(税抜)  
学校特別価格 33,000円(税抜)

## 道徳・特別活動

### いじめ 心の声に気づく力

小学校中・高学年向けのいじめ防止教材ドラマです。一見遊びに見える行為も、相手が苦痛を感じていれば「いじめ」であることを理解し、傍観者にならず、解決のために何か行動しようとする意識を持つことをねらいとしています。



教育映像祭最優秀賞(文部科学大臣賞)受賞

字幕版付き (19分)  
66,000円(税抜)  
指導の手引書・ワークシート付き 学校特別価格 33,000円(税抜)

### いじめ 一歩ふみ出す勇気

中学生向けのいじめ防止教材ドラマです。いじめの傍観者だった主人公が葛藤し、仲間と一緒にいじめの被害者を救っていかうとする感動的なストーリーを通して、いじめ解決のために一歩ふみ出すことの大切さを伝えます。



教育映像祭優秀賞受賞

字幕版付き (19分)  
66,000円(税抜)  
指導の手引書・ワークシート付き 学校特別価格 33,000円(税抜)

## 平和教育

### アゲハがとんだ -1945・3・10東京大空襲-

1945年3月10日の東京大空襲をテーマに、戦争の悲惨さと平和の大切さを訴える平和教材アニメーションです。



教育映像祭優秀賞受賞

字幕版付き (20分) 66,000円(税抜)  
学校特別価格 33,000円(税抜)

## 薬物乱用防止

### 薬物乱用は なぜいけないのか

青少年の薬物乱用を防止するための、ドラマ形式の教材です。薬物乱用から薬物依存になっていく恐ろしさを伝え、薬物を拒絶する強い意志を持たせます。



(19分) 66,000円(税抜)  
学校特別価格 33,000円(税抜)

お問い合わせ・チラシ請求は

☎ 03 (3535) 3613 FAX03 (3535) 3632

予告編  
配信中

<http://www.toei.co.jp/edu/>

教育映像

検索



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

(価格は税抜きです) ●学校向け特別価格もございますので、お気軽にお問い合わせください。

<http://www.toei.co.jp/edu/>